

新聞新賣讀

9月14日(火曜日)

賣

賣

新

聞

企業にCO₂吸収量売却

間伐増加分、交流も期待

森林によるCO₂吸収量を企業に売却し、山村振興に充てることを始めた大館北秋田森林組合と民間会社グリーンプラスが13日、県

庁で開かれた研修会で、活動報告をした。県内林業の再生と地球温暖化対策を同時に目指すユニークな試みだ。

環境省の「J-VER」と呼ばれる制度で、県内初となる。組合が上小阿仁村の森林を間伐。グリーン

プラスが、増えたCO₂吸収量を、売買できる排出枠に換えて、都会の排出量の多い企業などに売却する。

5年間で30から1000トンのCO₂吸収量を見込む。1ト平均1万6300円で売買されているという。組合は、売却益による森林整備、雇用創出が期待できる。企業は、地球温暖化対策に積極的という社会的な評価を得ることもできる。

組合では、「単なる売買を超え、都会と山村の交流人口を増やすきっかけにしたい」として、地域活性化にもつなげたい考えだ。